

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	有限会社 東京演劇アンサンブル		
所在地	埼玉県新座市野火止3-16-24	設立年	1954年
運営主体	東京演劇アンサンブル「野火止演劇クラブ」		
事業目標	地元の子どもたちが演劇に触れる場をつくり、地域に根付いた演劇活動を展開する		
きっかけ	2019年新座市に移転したことを機に、それまで「ブレヒトの芝居小屋」で行ってきた文化の交差点となるような「場」づくりの一貫として、子どもたちから青少年を対象にした「市民ミュージカル」活動を開始。ちょうど文化庁の地域文化倶楽部の事業目的に叶ったため、応募し、2年間活動してきた。		
団体・組織等の連携	東京演劇アンサンブル(運営・指導者派遣)→野火止演劇クラブ 保護者(運営協力)→野火止演劇クラブ 小・中学生(参加)→野火止演劇クラブ 新座市/新座市教員委員会/新座市民会館→後援/広報協力/会場提供/イベント協力(新座市民会館「出張!野火止演劇クラブ」) 日本児童・青少年演劇協同組合(児演協)→事業評議員派遣協力		
活動場所	主に「野火止RAUM」(東京演劇アンサンブルが家賃を払って使用している稽古場)。ほかに新座市の公民館「ふるさと新座館」も使用。		
活動概要	年間30回のワークショップを重ね、一本の作品の発表公演まで行う。		

## ○本事業による成果

参加者／コミュニケーションワークショップによって、仲良くなり、人と接することが怖くなくなることから始まり、芝居の稽古を進めるなかで、一步踏み出す勇気を持ち、ともに舞台をつくりあげる喜びを得た。

保護者／今までの習い事とは違い、子どもたちが変化していくことを驚きをもって語る保護者が多い。

周知／市長に表敬訪問し、活動内容を伝える。市議が参観。新座市と教育委員会の後援を得る。報告集を市内小中学校校長に送付。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

参加者10名、講師8名、劇団研究生5名という人数配分のため、参加者への目配りとフォローは十分に行えた。

講師陣は、このような事業をやっている茅ヶ崎の団体の代表者を招き話を聞き、その発表公演も見学して学習した。

歌や踊りのレッスンを交えて、飽きないような構成で活動することができた。

市内中学校には演劇部はないということなので、演劇希望者はこちらで受け入れることは可能であるし、要望があればアドバイスに出かけることも可能である。(ただし大人数の受け入れは現在のところは無理)

## ○運営上の工夫

劇団活動と並行した「演劇クラブ」であるため、長期休みにまとめた稽古ができなかったことが悔やまれる。場所だけでなく人材の問題であるため、これを克服するには、外部人材(例えば音楽、ダンスなどの専門家)の登用も考慮すべきか。

保護者との連絡に関しては、アルバイトを一人置いたため、スムーズに細かく行うことができた。

保護者による大道具・小道具・衣裳製作の協力が、昨年より多数の参加で行われた。この間に子どもたちの様子を聞くこともでき、今後はもっと増やしていきたいと考えている。

現人数ならば活動場所は野火止RAUMで十分だが、今後人数が増えた場合、「ふるさと新座館」を定期利用することも視野に入れている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

劇団のレパートリーを演劇クラブ用に改稿して上演するパターンを2回続けてきたが、これであれば、講師料以外は入場料収入と参加費でなんとか賄うことができることがわかった。

発表公演の質の高さと、子どもたちが楽しみに通う姿から、保護者からは会費が「安すぎる」んじゃないかとの声もあった。2023年度は会費アップとなるが、事前の通知はしてある。

講師料や場所代については、今後どのようにペイしていけるかが課題として残る。→そのために報告集配布し、地元企業のスポンサー探しや、今後のクラウドファンディングなども考慮する。

新座市や教育委員会はまだ名義後援のみで、補助金などの制度はない。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

年30回で、しっかりと子どもたちに対応し、一つの作品を作りあげるといふこの贅沢な「野火止演劇クラブ」が、どこでもすぐに可能だとは思わない。

学校の部活動という考え方ではなく、多様な課外活動が地域で可能であることによって、学校に部活動が必要なくなるという可能性はあるのではないか。

その一つである演劇活動を、わたしたちはこの地域でつづけていきたいと考えている。その良さは、学校という狭い社会で、子どもたちが貼られているかもしれないレッテルなど関係ない場であることが肝要である。

地域の大人たちが放課後の子どもたちを見守りつつ、専門的な知識を学べる場をつくり、そこに行政が補助金を出していけば、教師の負担も減るのではないか。

特にスポーツは、他校との競争であつたり勝ち負けが大切だつたりするが、文化は競争ではないので、文化部系の活動の受け皿を作る方が現実的かもしれないと考える。(演劇・合唱・絵画・新聞等)

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	10名
	学校名	任意参加 新座市内の4つの小学校より6名、3つの中学校より3名 さいたま市内の小学校より1名
	募集方法	4月初めに新座市内のポスティング／4月8日「出張！ 野火止演劇クラブ」での案内／1期生からのロコミ／1期生の発表公演を見たアンケートよりDM
指導者	人数等	8名 劇団員8名
	募集方法	劇団員→2021年1月の劇団総会での呼びかけ
参加者の移動手段		自転車／徒歩／保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 @1600円/時間
	その他	発表公演経費
活動財源	会費	参加費15,000円／公演費15,000円 ×10名
	その他	発表公演チケット収入 文化庁補助金
スケジュール	基本活動	月3～4回 土曜日14時～17時 全30回
	年間	30回＋発表公演2ステージ 詳細は別紙
保険加入等		参加者のスポーツ安全保険加入（会費に含まれる）

【活動の様子（写真添付）】

